

蒲生干潟の地形調査⑪

■導流堤付近で進む堆積により閉鎖した東側通水部分。

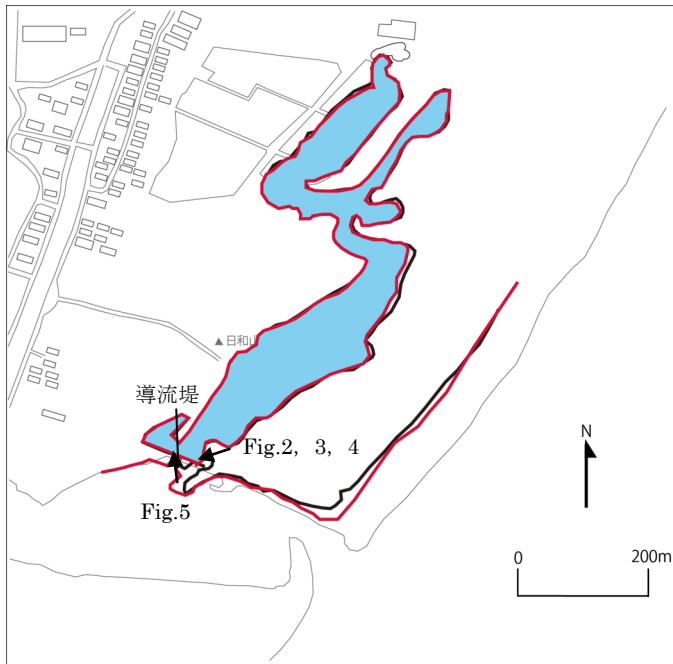


Fig.1 3月8日・4月6日の汀線・海岸線の簡易測量結果



Fig.2 堆積により閉鎖した、東側の通水部分



Fig.3 流量が減少した、中央の通水部分



Fig.4 堆積が進んでいる 中央の通水部分



Fig.5 川から潟湖に流れ込む水 新しく作られた通水部分

調査日 2016年4月6日(水) 14:00~15:40

この日の満潮時刻は14:58であり満潮時間帯(潮位133cm)に調査を行った。Fig.1で4月の汀線および海岸線を赤、3月のそれを黒で示した。潟湖は3月と比較してもほとんど変わらず安定していた。しかし河口では導流堤付近の堆積が進んでおり、東側の通水部分は閉鎖していた(Fig.2)。また中央の通水部分の堆積も進んでおり、3月に比べて流量が減少していた(Fig.3, 4)。新しく作られた通水部分の流量は多く、川と潟湖の通水はここで主におこなわれていた(Fig.5)。また、導流堤の南側は堆積による州が拡大していた。右岸側では防潮堤の工事が進んでおり、河口付近の砂州の面積が縮小していた。

(中田 晋)